

部局名

産業動物防疫リサーチセンター

担当：三澤 尚明



テーマ

家畜感染症を制御する新技術で持続可能な家畜生産と食料の安定供給を目指せ！

特色ある取組

本プロジェクトでは、日本側の代表機関である宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター(CADIC)と複数の機関が産業動物防疫に関する学術ネットワークを構築しているタイをASEANの国際教育・研究拠点として位置づけ、CADICが優位性を持つ感染症診断、数理疫学モデル及び食品衛生の研究分野を中心に、タイ農業協同組合省畜産開発局(DLD)等の研究機関との共同研究により、安定的かつ持続可能な家畜生産と安全・安心な畜産製品を供給できる病原体制御新技術を開発し、畜産製品の生産量と輸出量の増加に繋げることを上位目標に掲げています。

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)



DLDとの国際共同研究



口蹄疫等の迅速診断法の開発



防疫専門家の育成



安全な食鳥肉の生産技術開発

期待できる成果・評価 など

1. SDGs2: 飢餓をゼロに

家畜の感染症の診断に関する新技術の導入により、畜産生産の向上に大きな影響を及ぼす要因となっている重要な家畜感染症を制御することが可能となり、健康な家畜の生産増大に伴う良質な蛋白資源の持続的確保と安定供給に直結するもので、飢餓の終息と食料安全保障及び栄養改善に貢献します。

2. SDGs12: つくる責任 つかう責任

安全な食品を生産し消費することは、人の健康を維持する上で重要です。我々が取組む畜産食品の安全性確保のための技術開発は、汚染微生物による食肉の劣化や病原細菌の汚染によって、廃棄処分となっている問題を解決すると共に、食中毒低減対策に貢献します。

3. SDGs17: パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な農業(畜産)の促進は本研究課題の目標の一つとなっており、異分野融合型の国際共同研究と国際防疫ネットワークの機能強化により、関連する技術シーズの社会実装を加速させ、その結果、畜産資源生産システムの向上を可能とします。

参考URL

・産業動物防疫リサーチセンターHP

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/satreps/>